

1 教育方針

- (1)教育目標  
 一、知性を愛し、自ら学ぶ喜びに燃えよう 一、視野を広め、豊かな事故の創造に努めよう 一、心身を鍛え、たくましい覇気と行動に徹しよう  
 (2)校訓 友愛、自由、平等、団結

2 学校経営

- (1)目指す学校像 知徳体の調和のとれた「地域の未来をひらく人材」を育成する学校  
 (2)育成する生徒像 ①自ら学ぶ生徒 ②人間性豊かな生徒 ③心身を磨く生徒  
 (3)ありたい教職員像  
 子供たちへの愛情にあふれ、豊かな人間性を備えた教職員  
 同僚性を育み、自らの専門性を高める教職員  
 前向きでチャレンジ精神にあふれた教職員

キャッチコピー  
 地域と、世界に、挑戦できる学校  
 ～ウェルビーイングを目指して～



働き蜂 勤勞  
 羽根 勉學  
 胴体 高等学校  
 山型 友愛、自由、平等、団結

★評価はABCの3段階  
 A:良い B:概ね達成 C:改善が必要

3 学校自己評価

| 大項目        | 中項目  | 小項目  | 重点目標   | 具体的方策   | 方策の評価指標   | 年度総括   |  |   | 学校関係者評価   |
|------------|--|--|--|---|---|--|--|---|---|
|            |  |  |  |   |   | 指標の結果  | 評価   | ○ 達成されたこと ▼ 改善を要すること  |   |
| (1) 自ら学ぶ生徒 | (1) 確かな学力の育成                                   | ① 指導力向上  | 教務部  | ①観点別評価を通じて生徒の実態を細かく把握し、指導の工夫・改善につなげることで、生徒が前向きに挑戦できる個別最適な学びの実現を目指す。<br>②深い学びの実現に向け、探究型授業や対話的で協働的な学び、ICT活用等の実践を進める。  | ①授業公開や職員研修会を通じて観点別評価の工夫改善及び実践事例の共有を進める。<br>②授業評価アンケートを2回実施する。   | ①授業公開や研究授業、職員研修会等の実施件数<br>②授業評価アンケートにおける生徒の肯定的な回答が過半数となる。  | ① 教科で差があるものの、各教科でテーマを設定し、授業研究に取り組んでいた。② 1回目の授業評価では、各科目の授業に関する質問項目に、肯定的な回答が9割を超えている。                        | C   | ① 組織的に授業研究を進めたいためのテーマ設定や、授業研究週間を実施するなどの手だてを検討していく必要がある。<br>② 肯定的な回答が維持されるよう新たな工夫を積み重ねていく必要がある。                |
|            |  |  | 進路探究部  | 授業・講習等の内容充実を図るとともに、各種研修会の内容を共有し指導力の向上を図る  | ①共通テストや個別試験問題の研究・分析<br>②模試分析会や進路検討会の実施(これまでの指導効果の分析、今後の指導方針の検討)   | ①模試の成績:各学年設定の目標偏差値以上<br>②国立大学合格者:50名以上<br>③難関大・準難関大合格:1名以上<br>④MARCH等合格者:10名以上   | ①1月模試の結果が出ていないが、厳しい状況。<br>②年内入試の国立大学合格者は11名。<br>③難関大受験者1名(東北大AOⅢ)は不合格。一般選抜受験なし。<br>④MARCH等合格者6名。(いずれも年内入試) | C   | ○模試分析会は有意義に開催できた。<br>○共通テスト受験率142/153で92.8%。完全型受験134名。<br>▼共通テストの難化もあり上位層が少ない。難関大や準難関大を目指す生徒を一人でも多く育成することが必要。 |
|            |  |  | 1学年  | 家庭での学習習慣を確立させ、授業の内容をより定着させる。  | 授業内容がより効果的に身につくよう、学習への取り組み方・向き合い方について共に考え、1日の学習時間を確保させる。  | 学習時間調査で平日の学習が2時間以上、週末3時間/高い課題提出率の維持/課題未提出者の減少  | 家庭学習時間が1時間も満たない生徒が見られる。また、平日の学習時間目標の2時間に達していない状況がある。また、SNSの利用状況は増加傾向にある。                                   | C   | ○居残り等による未提出者の継続的な指導はできた。<br>▼平日の学習時間は減少傾向。  |
|            |  | 教務部  | 目標の設定及び自己評価に取り組みさせることにより、学びに向かう姿勢をより主体的なものとし、取り組みの過程及び結果を意識させる。<br>家庭での学習習慣確立に資する学習課題の提供について、ICT機器の様々な機能を有効活用した実践を進める。 | ①生徒に自己目標を設定させるとともに、達成に向けた学習計画を立てさせる。<br>②自己目標に対する達成状況を生徒に自己評価させ、自分の学習状況の工夫改善につなげる。<br>③与える課題を工夫し、家庭学習を充実させる。<br>④googleやスタディサプリの各機能を有効活用し、個別最適な学習の提供及びその評価方法について研究を進める。 | ①学校評価アンケートにおける目標を設定している生徒・成績を分析し自分の学習を調整しようとしている生徒の割合の増加<br>②生徒の授業評価、学校評価アンケートで「学習習慣がついた」回答が増えたか。<br>③スタディサプリの利用状況とその成果との関連性について分析する。 | ①目標を設定している生徒の割合は、1年 91.3%、2年 87.3%、3年 76.1%。また、「授業で理解できなかったところは、調べたり質問したりします。」の項目についても「大体している」と回答した生徒が70%前後である。<br>②課題や予習復習を「毎日行っている・行っている日の方が多い」としたのは、1年 59.7%、2年 56.3%、3年 62.5%。<br>③課題については、80%～90%超が取り組んでいるという回答になっている。しかし、予習や自主的な学習を行っているのは40%～50%程度となっている。<br>④スタディサプリーングリッシュ導入により英検受験者数の増加につながった。 | C  | ② アンケート結果から、課題を指示すれば取り組む生徒が多いことが分かる。生徒の学習習慣を確立させていくことができる効果的な課題の与え方について研究を進めていくとよいのではないかと。<br>④ スタディサプリーについて、英検以外の成果については明確なものがない。学力向上に効果があるのかや費用対効果の検証が必要。 |   |
|            |  | 進路探究部  | ICT機器や学習支援ツールを活用し、学習時間の伸長と「個別最適な学び」実現させる   | ①学習時間調査の実施<br>②ICT機器や学習支援ツールの積極的な活用   | ①学習時間:学年+1時間以上<br>②英検2級合格者30名   | ①第2回調査<br>1学年普通科1日平均82分 同スポーツ科1日平均9.6分<br>2学年普通科1日平均105分 同スポーツ科1日平均10.3分<br>②2級合格者6名(第1回～第2回)。   | C  | ▼各学年とも学習時間が不足。進路希望と学習時間が見合ったものになっていない。<br>○スタディサプリーEnglish導入に伴い、英検受験者は例年よりも大幅増。   |   |
|            |  | 生徒部  | スマートフォンの便利なツールとして有効に正しく活用できる力を身につけさせる  | 生徒会・学級委員・自治委員会を中心に、生徒が主体的に正しい利用につながる取組みを推進できるよう支援する。  | 学校評価(生徒版)でスマホ使用時間対年度比10%削減との回答が6割以上   | アンケート結果から、以前より減っていると回答している生徒が、1・3年は約50%であったが、2年生が約35%と少ない。全学年でも多くの生徒が利用時間が変わらないと答えている。   | C  | ▼生徒会としてスマホの利用時間減少やマナー向上の具体的な取り組みを検討する。<br>▼保護者へ協力の呼びかけ  |   |
|            |  | 体育部  | 体育の授業や部活動を通して、地域スポーツの振興発展に寄与する生徒を育成する。   | スポーツ概論・スポーツ総合演習、専攻実技を通して、スポーツを科学的に思考できる学力を育成する。   | 卒業論文制作の充実   | 卒業論文制作については、第33号となる卒業論文集を発行することができた。また、3年竹田愁人が山形県探究学習課題研究発表会において、自らの論文を発表し高い評価を得た。   | B  | ○3年竹田は県発表会においても高い評価を得た。<br>▼県発表会について、科教師・生徒の参加を促すような計画をすべきた。  |   |
|            |  | 1学年  | 確かな学力と探究的な学びの基礎力を身につけさせる。  | ①調査前学習会や長期休業中に講習を実施する。<br>②スタディサポートや模試の結果分析による教科指導の検討   | 1月進研模試でss55以上が50名以上   | 1月進研模試の結果がまだでていないが、評価できない面があるが、模擬試験への取り組みは良好。8月、12月の2回の模試分析会は有意義なものとなった。   | C  | ○英語のssは改善傾向<br>▼11月時点でss55以上が27人<br>▼ss50～55層の引き上げが必要   |   |
|            |  | 2学年  | ①進路目標を明確にしながら、学力を向上させる。<br>②学習内容の一層の定着のために家庭学習の習慣化に取り組む。   | ・定期テスト前に学習会を実施する。<br>・スタサポや模試の結果分析による教科指導の検討を行う。<br>・上位者指導を行い学習に取り組みを完全に還元する。<br>・授業内容がより効果的に身につくように、学習への向き合い方について共に考え、家庭での学習時間を確保させる。<br>・朝学習の時間を活用し、自ら学ぶ意欲を喚起する。      | ・1月進研模試でss50以上が80名以上、ss55以上が30名以上。<br>・家庭学習時間 平日2時間以上、休日4時間以上。<br>・週末課題提出における提出率80%以上。<br>・朝学習への遅刻0。                                  | ・1月進研の結果は未発表<br>・家庭学習時間平日1時間、休日3時間程度のものである。<br>・提出率は概ね達成   | C  | ▼家庭学習時間が少なく、学習量の不足が模擬試験の結果にも表れている。<br>○多くの生徒が提出物をささなければならぬという意識はある。   |   |
|            |  | 3学年  | 進路目標達成に向けて学力を向上させる。進学先でも十分に対応していくことのできる学力を養成する。  | 平日講習、夏冬講習、学習マラソン二次対策講習について模試分析や生徒の実態に応じた内容を設定し、基礎力・応用力の定着を図る。   | 進路決定100%<br>共通テスト受験率90%(普通科のみ)<br>国立大学合格者数50名   | 普通科46/153(30%) スポーツ科78/78(100%)<br>共通テスト受験率142/153(92.8%)<br>国立大学合格 11名<br>2026/1/30現在   | B  | ○普通科の共通テスト受験率が良かった。<br>※進路決定・国立大学については結果待ち  |   |
|            |  | 3学年  | 家庭での学習習慣を確立させ、主体的に学びに向かう生徒を育成する。   | ①放課後の学年棟を主体的学習空間として提供する。<br>②時間を可視化し学習時間を確保するための24時間の使い方を工夫させ、受験生に必要な学習時間を確保させる。  | ①学習時間目標平日4時間、休日8時間以上<br>②放課後の学習活動の促進<br>③朝学習の呼びかけ   | ①学校評価アンケート<br>3hs以上36% 2hs以上21%<br>②放課後学習スペースとして普通科教室を開放した。<br>③他教科の担当者との協力し、有効な取り組みができた。  | C  | ○普通科について、放課後講習の出席率が良かった。<br>▼放課後の学習スペースで目的外に残りしている生徒が若干いた。<br>▼共通テスト直前に普通科1/4の生徒が欠席した。  |   |
|            |  | 総務部  | 危機管理や緊急時対応のマニュアルを再点検し、生徒が安全に学校生活を行える環境整備を図る。   | ①避難訓練(2回/年)を実施する。<br>②施設安全点検を月1回行い、校舎の危険箇所を早期発見する。<br>③備品品の点検を行い、緊急時対応の環境を整備する。   | 学校評価(生徒・保護者)で肯定的高評価合計が70%以上   | 避難訓練の効果に関する評価<br>生徒平均 82.2%<br>校内施設・設備の安全に関する生徒平均 94.7%  | B  | ○危機管理マニュアルを随時整備していった(クマ出没時について等)  |   |
| 総務部        | 学校生活における生徒・保護者の満足度を高めるために、食堂運営、弁当やパン販売等の充実を図る。 | ①関係業者との綿密な情報交換を行う。<br>②生徒や保護者の意見をフィードバックできるように取り組みを適宜実施する。 | 学校評価(生徒・保護者)で肯定的高評価合計が70%以上  | 学校評価肯定的評価<br>保護者平均 70.7% 生徒平均 83.3% 全体平均 77.0%  | B   | ○食堂、弁当のメニュー充実<br>○パン販売の拡大(月曜販売の追加)<br>▼運動部(アスリート)向けメニューの改善   |  |   |   |

| 大項目          | 中項目           | 小項目        | 重点目標  | 具体的方策  | 方策の評価指標  | 年度総括  |  |   | 学校関係者評価   |   |
|--------------|---------------|------------|---|--|--|---|--|---|---|---|
|              |               |            |   |  |  | 指標の結果   | 評価   | ○ 達成されたこと ▼ 改善を要すること  |   |   |
| (1) 豊かな学力の育成 | ③ 学習環境整備      | 教務部        | 学習センターの蔵書を充実させ、読書に親しむ環境を整備するとともに、書籍や情報を活用した探究的・主体的な学びを支援する。 | 学習センターの環境整備・蔵書充実   | ①蔵書の増加<br>②学習センターを活用した授業の増加  | ① 今年度は図書の購入が予定通りできている。<br>② H7 86h(H6 92h)授業での利用は若干減少しているが、部活動単位での利用が増えている。<br>その他、図書館や書店との連携やビブリオバトル県大会の実施など充実した活動ができています。 | B  |   |   |   |
|              |               | 保健部        | 環境の美化に貢献できる公共心を育む   |  | ①丁寧な清掃活動(男子トイレ小便器トラップ・黒板周辺・ベランダの強化)<br>②雑巾がけの徹底(毎週火曜日、黒板周辺等は毎日でも可)(砂・埃の拭き取り強化)<br>③生徒による清掃点検の実施(生徒保健委員会環境整備班が毎月1回実施)<br>④ゴミの分別、持ち帰りの徹底(生徒保健委員会による清掃時ゴミ集積所での点検・声かけ) | 清掃点検のA評価80点以上<br>ゴミ分別について回収業者等からの苦情件数5件以内   | 1年9.3点<br>2年8.6点<br>3年9.0点   | B   | ○清掃については、評価を変え、点数化し、生徒にも結果を見せ、年間10点満点中9点と改善が見られた。<br>○ゴミの持ち帰り、分別については概ね良好で、定着している。<br>○トイレの床掃除をやりやすい方法に改善し匂いが減少した。<br>▼清掃分担区、清掃点検場所以外の美化意識の向上 |   |
|              |               | 体育部        | 地域スポーツの振興発展に寄与する人材を育成する。                                    | ①グラウンドの人工芝を推進する。<br>②プール施設の改良・修繕を図る。   | 学校評価における施設満足度80%を超える。  | ①地域スポーツの振興発展に寄与する上で施設設備の充実が喫緊の課題であるため、継続して要望していく。<br>②プール修繕により水漏れが大きく改善された。水位が保たれることで、授業や部活動の安全な活動が保障された。                   | B  | ○校長の働きかけにより、県や競技団体関係者と対話を通し要望する機会を得た。   |   |   |
|              | (2) 探究学習の拡大   | (1) 自ら学ぶ生徒 | 進路探究部   | 多様な他者と協働しながら地域の文化や課題等について自ら探究的に学び、地域や社会の振興と活性化に挑戦する力を育成する  | ①地域の人材・企業・行政・大学等との連携<br>②情報収集・整理分析・まとめ・発表の各場面におけるICT機器の効果的な活用<br>③探究型学習等による課題解決能力の育成   | ①自ら見つけた課題を探究し、発表することができる<br>②ルーブリックによる評価段階の向上   | ①授業評価において1、2学年ともに9割の生徒が肯定的に評価。<br>②ルーブリック自己評価で1学期と3学期を比較すると生徒の自己評価は上昇傾向。               | B   | ○多く協力を得て成果発表会を実施することができた。<br>○動画撮影や個人レポート作成により活動の振り返りを行った。<br>▼授業評価やルーブリック評価では高評価でも、実際の活動内容や態度がとまなびになっていない場合も見られるため、評価の在り方を検討したい。             |   |
|              |               |            | 1学年   | 総合的な学習の時間における探究型学習を通して探究心及び発信力を育成する  | 探究活動で得た知識を活用する場を提供し、様々な交流を通して地域の未来につながる学習活動(校内外の体験学習など)を実践する。  | ①自らが見つけた課題を探究し、発表することができる<br>②アンケートの満足度の増加  | 9割の生徒が探究活動にA積極的に取り組めた。B取組めた。と回答している。外部に出て、熱心に取り組む生徒も多く見られた。                            | A   | ○外部との連携がうまくできた。<br>▼様々な提出物が遅れて提出する生徒が散見された。   | B |
|              |               |            | 2学年   | 総合的な探究の時間における、探究型学習を通して探究心及び発信力を育成する。  | 探究活動で得た知識を活用する場を提供し、様々な交流を通して地域の未来につながる学習活動(校内外の体験学習など)を実践する。  | ①アンケートにおいて、探究活動で「意欲的に取り組めた」9割以上。<br>②12月の各グループによる発表会において、それぞれの生徒が以前より達成感を得られ、成長できたと実感できる。                                   | ・意欲的に取り組めた生徒85.7%<br>・発表を文章にまとめることで概ね達成感を得られているようである。                                  | B   | ○多くの生徒は意欲的に取り組み発表会で自分たちの活動をまとめしっかりとした態度で発表を行った。   |   |
|              |               |            | 3学年   | 自ら探究的に粘り強く学び、将来の夢や目標と地域の振興や活性化に挑戦できる生徒を育成する。   | 総合型選抜と推薦型選抜入試を見据えた論文作成と指導を行う。  | 探究論文の提出100%   | 230/231 ほぼ100%達成   | B   | ○ほとんどの生徒は概ね目的をもって探究活動に臨めた。  |   |
|              | (3) キャリア教育の充実 | (1) 自ら学ぶ生徒 | 進路探究部   | 知・徳・体の調和のとれた「地域の未来をひらく人材」を育成する   | ①県内大学と連携した出張講座の開催<br>②山形で活躍する人材によるトップセミナーの開催<br>③県教委主催の各種セミナーへの積極的な参加<br>④進路希望実現に資する進路研修会の開催   | 各種アンケートで肯定的な回答が8割以上   | ④進路研修会アンケートの肯定的回答<br>1年生79.2% 1年保護者97.9%<br>2年生72.1% 2年保護者92.8%<br>3年生80.2% 3年保護者93.3% | B   | ○コンソーシアム山形の協力を得て開講できた。<br>▼地元大学進学促進セミナー、小学校教員体験セミナーともに参加者が減少しているため、進路希望から一本釣りするなどの対応が必要。  |   |
|              |               |            | 体育部   | 地域スポーツの振興発展に寄与する人材を育成する。   | ①担任・顧問による進路個別相談を実施する。<br>②スポーツセミナーを実施する。<br>③近隣小学校とのスポーツ交流連携事業を継続する  | ①進路指導の充実<br>②キャリア育成の自己啓発  | スポーツセミナーでは、本県出身の登山家である飯澤政人氏を講師に迎え、自分の夢の実現にむけた心構えや困難に立ち向かう大切さについて講演をいただいた。              | B   | ○県出身の登山家の話しについて、生徒は各自の種目に置きかえて聴講することができた。   |   |
|              |               |            | 1学年   | 進路学習や研修会を通して進路意識を高める。  | ①学習ガイダンス・進路ガイダンス・進路研修会を実施する。<br>②大学等の外部講座やオープンキャンパスへの参加を促進する   | ①アンケート調査で肯定的な回答が8割以上<br>②進路希望調査で志望大学、学部、学科を具体的に回答した生徒が増加  | およそ8割の生徒が進路ガイダンスや研修が役立っていると回答。7月の東北大学オープンキャンパスについては、生徒の進路意識の高揚に繋がった。                   | B   | ○6月進路研修会へ、ほぼ全ての普通科保護者が出席<br>○具体的な進路先を記載する生徒は増えている。<br>▼2年次はO参加を促すため日程調整指導が力がかか。   | B |
|              |               |            | 2学年   | ①社会と自分の関わり方を考えさせる。<br>②進路学習や研修会、面談・家庭との連携・外部体験活動等あらゆる機会を捉えて進路の明確化を図る。  | ・各種適性検査や進路研修会、探究活動を通してキャリア教育を実施する。<br>・学習ガイダンス・進路ガイダンス・進路研修会を実施する。<br>・大学等の外部の講座への参加を促進する。   | ・アンケート調査での肯定的な回答が8割以上<br>・進路希望調査で具体的な進路希望(学部、学科等)の記載90%以上。  | ・アンケートA・Bの割合【進路ガイダンス72.1%、総探での進路意識85.7%】<br>・具体的な進路希望【普通91.2%、スポ58.8%】                 | B   | ○キャリアに関する意識の高まりがみられた。<br>▼掲げた目標を実現するための行動(学習)の取組ができていない。  |   |
|              |               |            | 3学年   | 第1志望合格に向け、多様化する試験に対応できる確かな学力と探究的な学びの意識を定着させる。  | ①早期に進路目標を確定させ、生徒が将来のビジョンを持ちながら進路実現に挑戦できるよう面談を実施。<br>②受験についての情報を保護者と共有する。<br>③進路ガイダンス・研修会を開催する。<br>④2者面談・3者面談の充実  | 学校評価アンケートで、進路行事AB8割以上   | 学校評価アンケート 肯定的回答<br>生徒:80% 保護者:93%  | B   | ○各担任が適切な時期に3者面談を実施。(夏休み・共通テスト後)   |   |
| 4) 教育DXを実現する |               |            | 情報デジタル部   | 校内のGIGAスクール構想の構築と運用を適切に進め、端末を活用したICT教育の研究を進める  | ①生徒教職員の端末の管理運用を適切に行う。<br>②校内の情報機器の管理・更新など、利用しやすい環境づくりを行う。<br>③職員への情報提供や研修を企画・実施する。<br>④教育部、進路探究部との連携を密にする。   | 生徒・職員の評価<br>実態調査等の提出率(70%以上)  |  | B   | ○教育情報NWの再構築中<br>○3年生のタブレット回収の時期を1月中に行えた。<br>▼年度初めのタブレットの準備がなかなかできない状況にあり、1年スポーツ科への貸与が遅れてしまった。<br>▼学年閉鎖に伴うリモート授業の機器が整備されていない。                  |   |
| (2) 人間性豊かな生徒 | (1) 豊かな心の育成   | 総務部        | 学校の魅力を校外へ発信できるようにする。  | ①HPと学校パンフレットの充実を図り、学校の魅力を地域や小中学生に発信する。<br>②保護者(PTA理事)によるPTAだより(年2回発行)作成をさらに活性化し、より保護者に向けた発信力のある内容にしていこう。                                 | 学校関係者評価委員及び保護者の学校評価で肯定的評価が70%以上  | 学校評価肯定的評価<br>保護者平均76.1%<br>学校関係者評価委員会は実施前   | B  | ○ホームページへの行事予定表の配信<br>▼ホームページへの情報更新をリアルタイムに行うための方策   |   |   |
|              |               | 総務部        | PTA活動ならびに学校関係者評価委員活動を活性化し、学校や生徒と保護者や地域の連携を深める。              | ①保護者には登校時一声運動等で、学校関係者評価委員には授業参観を企画することにより、学校の様子を直に見ていただき、学校活動への理解を深めていただく。<br>②中央祭のPTA出店企画へ更に活発な保護者参加を促し、生徒の活動に参画する機会、PTA活動が生徒に見える機会とする。 | ①一声運動参加80%以上<br>②学校評価(保護者)で肯定的評価が70%以上   | 学校評価肯定的評価<br>保護者平均 65.0%<br>1学年78.9%<br>2学年59.2%<br>3学年56.8%  | C  | ▼学年が上がるにつれ、PTA活動への参加が減少している傾向への対策。(登校時一声運動で顕著。しかし、地区高P連研究大会への動員協力については2年生が大幅に少ない結果であった。)        |   |   |
|              |               | 生徒部        | 生徒一人ひとりに多様な場を提供し、集団を率いる力・集団に貢献する力の育成を推進する                   | ①生徒会・学級委員会・自治委員会によるあいさつ運動を実施する<br>②チーム中央の一体感を味わえるような壮行式や全校応援における充実した応援体制をとる  | 学校評価(生徒版)で6割以上が評価  | アンケート結果により、9割以上の生徒がよくできている。ある程度できていると回答している   | A  | ①▼あいさつ運動が生徒全員のあいさつ向上に繋がっている反面、一部できていない生徒もいる。<br>②○壮行式や体育祭、文化祭、野球応援などを通じて、チーム山形中央の一体感を味わうことができた。 |   |   |
|              |               | 体育部        | 自己管理ができる生徒を育成する。  | ①学校を休まないで登校する。<br>②体育科集会を通じた規範意識を涵養する。   | ①出席率99.0%<br>②問題行動0  | ①出席率(2学期末時点)<br>1年生98.6% 2年生97.9% 3年生97.7%(全体:98.1%)  | C  | ▼金銭盗難に係る管理方法の指導徹底が求められる。ロッカーの施設使用、移動教室時の携帯。起きてからでは遅いため、未然防止策として徹底を図る。                           | B   |   |

| 大項目          | 中項目                                      | 小項目   | 重点目標   | 具体的方策  | 方策の評価指標   | 年度総括  |   |  | 学校関係者評価  |
|--------------|--|---|--|--|---|---|---|--|--|
|              |  |   |  |  |   | 指標の結果   | 評価  | ○ 達成されたこと ▼ 改善を要すること   |  |
| (2) 人間性豊かな生徒 | (1) 豊かな心の育成                              | 2学年   | ①生徒が本や新聞など活字にふれる機会を提供する<br>②ボランティア活動や部活動、全校応援等の集団活動で「本気」「礼儀」の生徒会スローガンを意識させ、チーム山形中央として活動する。<br>③学校と家庭の連携を図り、学習環境の整備や生徒理解を深める。 | ・各種競技の応援を通じて仲間を本気で応援できる心とワンチームの意識を高める。<br>・他人の個性を認め、尊重しながら生活するよう指導する。<br>・学年通信を発行し学校の様子を伝え、共育の姿勢を持てるようにする。<br>・HPへの掲載を行い、学年の魅力を発信する。 | ・図書平均貸出冊数3冊以上。<br>・アンケート調査での肯定的回答が8割以上。<br>・いじめ案件0件。<br>・PTA総会・進路研修会出席率 50%以上<br>・学校評価(生徒版、保護者版)AB80%以上   | ・図書の平均貸出冊数1.65冊。<br>・仲間関係、協力関係ができた91.8%<br>・いじめアンケートでの重大ないじめ事実はなかった。<br>・PTA総会28%、進路研修会61%<br>・さくら連絡網での情報共有ができて(生徒84.2%、保護者95.2%)<br>・入学して(させて)よかった(生徒84.2%、保護者94.4%) | B   | ○杜行式や野球の全校応援などで学校としての一体感・仲間を応援する気持ちが強くなった。<br>○さくら連絡網の活用に関しては概ね良好。<br>▼学校行事等への保護者の皆さんの参加をより一層呼びかけていく。  |  |
|              |  | 3学年   | 基本的な生活態度を身につけ、礼儀正しく、良識ある行動がとれる生徒を育成する。<br>知・徳・体が調和し自他を認め合うことができる生徒を育成する。   | ①集団行動でのルールを尊重させる。<br>②学校行事や生徒会活動への積極的参加を促す。  | ①進路を意識した服装・髪型などの身だしなみの習慣化<br>②重大ないじめ案件0件  | ①身だしなみを意識し、制服を正しく着こなしている生徒がほとんどだったが、一部ルーズな服装の生徒が見られた。<br>②重大ないじめはなかった。  | C   | ▼服装について、身だしなみの意識を理解させ、節目ごとに生徒自身で確認できれば良かった。  |  |
|              | 人(2)グローバル社会の                             | 進路探究部   | 国際社会に通用する能力やグローバルな視点を持ち、地域社会や地域経済の活性化と発展に貢献する人材を育成する   | ①地域に在住する外国人等との交流・連携の促進<br>②異文化交流や多文化共生の視点に立つ探究活動の展開(グローバル・イノベーター育成事業)  | アンケートにおいて肯定的な回答が8割以上  | 「総合的な探究の時間」の積極的な参加 89.3%  | B   | ○今年度の山形県新規事業であったが、生徒も地域在住の外国人の講師と積極的に交流できた。<br>○山形県探究型学習課題研究発表会に出場。  |  |
|              |  |   | 情報デジタル部  | タブレット端末などを正しく安全に活用できる力を身につけさせる   | 生徒へのオリエンテーションなどにより、情報セキュリティやメディアリテラシーを身につけさせる。  | 生徒・職員の評価<br>情報Iの授業評価  |   | A  | ○1年生オリエンテーションを4月実施。<br>○学年、生徒部や授業で情報リテラシー教育を実施。<br>▼生徒のタブレットの破損が多い。<br>▼不正アクセスなどの報告が数件あり、セキュリティ意識の更なる高揚が求められる。                             |
|              |  | 1学年   | 社会と自分の関わり方を考えさせる。  | 各種適性検査や進路研修会を通してキャリア教育を実施する。   | 検査結果や進路行事のアンケート調査で、役に立ったという回答が8割以上  | 文理選択については、入学当初から様々な機会、丁寧に説明することができた。また、6月の進路研修会では、保護者の出席率も高く、有意義な会となった。   | B   | ○文理選択を支援する教材を採択。PTA総会でも説明し、時宜を得た。  |  |
|              |  | 3学年   | 外国語教育の充実   | ①英検に積極的に受験する雰囲気を作り、準2級・2級の取得者が大学入試や海外留学に利用できるようにする。<br>②スタディサプリ for Englishの活用で英語への主体的な学習活動ができるように促す。                                | ①英検準2級取得者95名<br>普通科80・スポーツ科15<br>②英検2級取得者35名<br>普通科30・スポーツ科5  | ①英検準2級<br>普通科24・スポーツ科2<br>②英検2級<br>普通科15・スポーツ科0 ※英検準1級 普通科1名  | C   | ○2学年秋から受験することの重要性を訴えてきた。<br>○準1級の合格者が出た。<br>▼目標設定が高すぎた。  |  |
|              | (3) 共生社会の形成を目指した理解啓発の推進                  | 共生社会の形成を目指した理解啓発の推進   | 総務部  | 在学生への社会的支援と家庭との連携に寄与する。  | ①奨学金制度を迅速かつ確実に案内・周知する。<br>②奨学金の申込み対応を適切に進める。  | 奨学金制度案内についての保護者からの苦情0件  | 保護者からの苦情0件  | B  | むやみに申し出てくる家庭が目立つ。学業成績や収入額の基準を満たすかどうかを確認してうえで申請するよう保護者への周知徹底が必要。  |
|              |  |   | 保健部  | 互いに多様性を認め合い、誰もが安心して学校生活を送れるように支援する   | ①生徒・保護者・教員が健康相談にアクセスしやすい環境をつくる(年間計画で相談日を継続して27日に増やし、HPでもわかりやすくPRするとともに幅広い活用を図る)<br>②当該学年と保健部が連携し、特別な支援を要する生徒(学習支援を含む)へきめ細やかな対応をする<br>③職員研修(特別支援)の開催 | 健康相談件数が増えることは、相談につながるスキルや健康に対する意識が向上していると捉えることができる。相談件数の増を「健康相談」活用力の向上とした   | SC 生徒34名、保護者10名(1月末)  | B  | ○予定されていた27回に加え6回の臨時SCを実施。<br>○個別の指導計画・支援計画の作成。保護者との面談を学年と連携し実施した。<br>○職員研修会では、県の「特別支援巡回相談事業」を活用して行い参加率も高く良かった。<br>▼学年等の状況に応じた役割分担ときめ細やかな対応 |
|              |  |   | 生徒部  | 生徒一人ひとりに規範意識を定着させることで、安心安全な学校環境づくりを推進する  | ①ヘルメット着用推進を通じ、登下校時の交通安全の意識を向上させる。<br>②いじめ案件に対し迅速かつ組織的な対応を行う<br>③頭髮服装指導を定期的に実施し、規範意識の醸成を図る。  | 交通事故件数1桁。<br>特別指導事業発件数前年度比50%減  | 交通事故件数18件(救急搬送2件)<br>重大いじめ事案0件  | C  | ▼自転車事故が相変わらず多い。ヘルメット着用推進については積極的な取り組みに繋がらなかった。許可条件への追加・実施の検討   |
|              |  |   | 生徒部  | 豊かな人間性や社会性を育むために、部活動単位でのボランティア活動を推進する  | 各部がボランティア実施計画書・報告書を作成し、具体的に実効的なボランティア活動の充実を図る。  | 学校評価(生徒版)で6割以上が評価   | スマートフォンのルールが守れず、預かりとなる生徒が少なくない。期学習への遅刻等がなく、落ち着いて授業に取組めた。清掃についても、しっかりと取り組んでいる。   | B  | ▼スマホの授業中の使用などが散見された。   |
|              |  |   | 1学年  | 基本的な生活態度を向上させる。  | ①生活リズム(三点固定)の大切さを強調する<br>②学校や社会の規律の遵守を指導徹底する。<br>③スマホの適切な使い方を繰り返し指導する。  | ①学習時間調査、アンケートにおける学習時間、睡眠時間の確保<br>②特別指導案件0<br>③違反によるスマホ預かり件数10件以内  | スマートフォンのルールが守れず、預かりとなる生徒が少なくない。期学習への遅刻等がなく、落ち着いて授業に取組めた。清掃についても、しっかりと取り組んでいる。   | B  | ▼スマホの授業中の使用などが散見された。   |
|              |  |   | (3) 心身を磨く逞しい生徒   | (1) 健やかな体の育成   | 保健部   | 主体的に自己の健康管理をし、健康で安全に暮らすための意識の向上を図る  | ①健康診断を実施し、その後の有所見者に対しての受診を徹底する<br>②精神衛生に関する講演会を実施する<br>③コロナ禍で身につけた健康管理意識の継続を図る<br>④スポーツ科職員や顧問と連携し、部活動での安全対策を行う<br>⑤「ほけんしつより」や保健委員会の掲示物での啓発活動を行う | ①有所見者の受診状況の向上(昨年度:視力32.1% 歯科23.1%)<br>②講演会後のアンケート役に立つ90%以上<br>(昨年度:スポ92.8%普通94.2%)<br>③日常的な健康セルフチェック<br>④夏季の部活動での熱中症対策(毎活動日)<br>⑤年間8回以上「ほけんしつより」発行 | ①視力35.2% 歯科17.6%<br>②スポーツ科95.0% 普通科 95.6%  |
| 保健部          | 心身ともに明るく健康な生活を送れるように支援する                 | 生徒保健委員会の研究活動を支援する<br>①健康や安全についての理解を深め、各自がそれぞれの心身の健康について見つめる機会とする。<br>②具体的な対応について理解を深め、主体的に心身の健康管理をするための知識や力を養う。 |  |  | 研究過程で実施するアンケート調査の結果   | 平日の睡眠時間6時間以下が41% (休日8%)<br>睡眠不足による体調不良を感じたことがある64%  | B   | ○アンケート実施を通して、睡眠時間の短さが体調不良に関係していることがわかる。睡眠の重要性を理解してもらおう。  |  |
| 1学年          | 健康で安全に暮らすために、主体的に自己の健康管理をする意識を向上させる。     | ①健康診断・各種検査の実施後の受診を呼びかける。<br>②事故や怪我がないように留意させる。<br>③感染症対策を徹底させる。   |  |  | ①有所見者の受診率は歯科50%以上、視力70%以上<br>②振興センター災害給付申請件数50件以下   | 2学期後半から体調不良等で欠席する生徒が増加した。また、自転車事故についても15件と非常に多かった。  | C   | ▼計3回の学級閉鎖を行った。換気等は担任団が中心に行った。  |  |
| 2学年          | 健康で安全に暮らすために、主体的に自己の健康管理をする。意識を向上させる。    | ・健康診断や各種検査の実施後の受診を呼びかける。<br>・事故や怪我がないように留意させる。<br>・感染症対策の徹底させる。   |  |  | ・歯科、視力の有所見者の受診率55%以上<br>・振興センター災害給付申請件数50件以下。   | ・歯科20%、視力32.7%<br>・振興センター22件  | C   | ○振興センター災害給付申請は多くはなかった。<br>▼有所見者の受診状況が悪い。   |  |
| 3学年          | 学校と家庭の連携を図り、互いに協働しながら生徒の人格形成や進路実現に取り組む。  | ①学年通信やさくら連絡網等で家庭への情報発信をする。<br>②保護者を対象とした進路研修会を開催する。   |  |  | 学校評価アンケートで、連携AB8割以上   | 学校評価アンケート 肯定的回答 生徒:89% 保護者:96%<br>進路研修会(6月)の保護者出席率 195/231(84%)   | B   | ○生徒の進路相談や心身の健康状態の把握について、家庭との情報共有を丁寧人間関係が原因で欠席する生徒が見られた。  |  |
| 3学年          | 生徒自ら安全・健康に留意し、主体的に健康管理ができるよう自己管理能力を育成する。 | ①進路実現や将来の社会生活に向けて、欠席が少なくなるよう健康管理を促す。<br>②事故や怪我がないように健康観察による生徒の健康状態を把握する。  |  |  | 出席率97%以上<br>学校評価アンケートで清掃AB9割以上  | 出席率96.8%<br>(普通科96.4% スポーツ科97.5%)<br>学校評価アンケート 肯定的回答 生徒:96% 保護者:84%   | C   | ▼受験のストレスや人間関係が原因で欠席する生徒が見られた。<br>○一方で自分自身の体調に合せて自己コントロールできるまで成長する生徒も見られた。  |  |

| 大項目            | 中項目                                  | 小項目          | 重点目標  | 具体的方策  | 方策の評価指標  | 年度総括  |   |  | 学校関係者評価  |   |
|----------------|--------------------------------------|--------------|---|--|--|---|---|--|--|---|
|                |                                      |              |   |  |  | 指標の結果   | 評価  | ○ 達成されたこと ▼ 改善を要すること   |  |   |
| (3) 心身を磨く逞しい生徒 | (2) 社会に参画する当事者意識の醸成                  | 生徒部          | 地域、家庭と連携を図り、生徒が地域や学校の課題に当事者意識を持ちながら、主体的に取り組めるよう支援する。                        | 生徒会活動において、生徒の考えや意見を反映させながら、行事の内容や運営方法を積極的に見直し、生徒一人ひとりが主体的に参画できるようにする。  | 学校評価(生徒版)で6割以上が評価  | どの学年も約8割の生徒ががしかりできている。ある程度していると回答している。  | B   | ○体育祭、文化祭では実施内容の見直しや工夫を積極的に行い、新たな取り組みを行うことができた。<br>▼生徒会執行部のリーダーシップは希薄で育成が必要。リーダー研修会の充実。   | B  |   |
|                |                                      | 体育部          | 規範意識を持ち、協調性とおもいやりのある生徒を育成する。  | ①各部でボランティア計画を作成する。<br>②体育科集会を通じた規範意識を涵養する。   | ①ボランティアの実施状況<br>②問題行動の件数   | ①冬季間の雪かきボランティアについて、男子バスケットボール部など、部活動単位で活動した。野球部は継続して外トイレの清掃に取り組んでいる。<br>②スポーツ科の授業に向かう姿勢や態度が低調であるという指摘があった。寝てしまう生徒などに対して、仲間同士で互いに声を掛け合うなど、真のスポーツ人としての自覚と誇りを持って判断できる人間の育成を目指す必要がある。 | C   | ▼スポーツ科生の授業態度が問題視された。寝る、私語等悪い状況にある。<br>○改善するための具体策として「PRIDEプロジェクト」を始動した。科集会、部長会、部集会と生徒が主体となって考えることができた。                             |  |   |
|                |                                      | 2学年          | ①身の回りの環境に目を向けさせ、それを改善しようとする。公共心を育てる。<br>②基本的な生活態度を向上させ、主体的行動ができる集団づくりを推進する。 | ・心を込めた丁寧な清掃活動ができるよう指導する。<br>・生徒一人ひとりが公共の空間であることを認識し、整理整頓に努めるよう指導する。<br>・生活リズム(三点固定)の大切さを強調する。<br>・学校や社会の規律の遵守とスマートフォンの適切な使い方の指導を徹底する。<br>・諸行事への意欲的参加を促す。 | ・清掃点検で評価Aが90%以上。<br>・学習時間調査等で生活時間を把握する。<br>・日々の遅刻者3名以下。<br>・特別指導0、違反でのスマートフォン預かり10件以内。                                 | ・清掃点検評価8.6点/10点<br>・学習時間調査とダイアリー記入を行った。<br>・遅刻者平均およそ7名<br>・特別指導0件、スマホ預かりほぼなし。   | A   | ▼トイレ掃除の評価が低いが他と比べてどのようなところができていないのか指摘してもらい改善したい。<br>○折に触れて学習時間調査やダイアリー記入を行い現状の認識や意識向上に努めた。<br>○▼大きなルール違反はないが、身だしなみやマナー面で意識向上が望まれる。 |  |   |
|                | を通じた心身の育成 芸術活動                       | 生徒部          | 部活動の充実を図り、技能や競技力のみならず人間力の向上を図る  | 生徒自身が成長を実感しながら充実した活動ができるよう指導体制を構築する。   | 学校評価(生徒版)で6割以上が評価  | アンケート結果により、9割以上の生徒がよくできている。ある程度できていると回答している。  | A   | ○部活動(インターハイ過去最多人数出場)や探究活動(全国3位入賞)など例年以上の活躍があった。<br>▼部活動を通して、倫理観や規範意識、学習への取り組み方を向上させ、学校を牽引できる人間性の育成を図る。                             | A  |   |
|                |                                      | 体育部          | 授業や部活動を通じて、全国大会で勝負できる能力や資質を有する生徒を育成する。                                      | 顧問の指導力向上を図る。<br>主体的に練習に取り組める生徒の育成を図る。  | ①県大会優勝数10<br>②全国大会出場数150(団体5)(夏季100・冬季30)<br>③全国大会入賞数30(団体1)(夏季10・冬季20)  | ①県大会優勝数48(団体22・個人26)<br>②全国大会出場数(団体8競技)(夏季21・冬季未定)<br>③全国大会入賞数(団体0)(夏季・冬季)※いずれも1/20現在   | A   |  |  |   |
|                |                                      | 3学年          | 学習活動とスポーツ・文化活動を両立させるために必要な効果的な家庭学習の在り方について指導し、自立した生徒を育成する。                  | 生徒面談や部顧問との連絡を密にし、生徒の学習状況、部活動への取り組み状況を把握し、文武両道の実践を図る。   | 学校評価アンケートで、連携AB8割以上  | 学校評価アンケート 肯定の回答<br>生徒:61% 保護者:75%   | C   | ○部活動において、夏のインターハイで過去最高の出場者数だった。  |  |   |
|                | (4) 学校経営                             | (1) 働き方改革の推進 | 3学年   | 教育活動において、生徒のためになっているか、教員が持続可能な取り組みになっているかを教員同士で意見を出し合い、業務のスリム化を目指す。  | ①担任が生徒との面談時間を確保できるように、例年行っている取り組みであっても、必要性がなければ廃止するなどして、余裕を持った教育活動を目指す。<br>②毎週行われる学年会や普段の会話で率直に業務のスリム化について話れる雰囲気を作り出す。 | 年度末の学年団の感想をまとめる。  | 学年団で仕事の軽重を見極め、必要のない業務を削減しようという声や意識が常にあった。実際に進路について、会計と模試の仕事の負担を学年全体でシェアできたことがとても良かった。 | B  | ○学年会や普段の会話の中で自由に話し合える雰囲気常にあった。   | B |
|                |                                      |              | 管理職   | 職員の健康状態に留意し、休暇を取りやすい職場環境を整備するとともに、職員が自ら健康維持増進に努めるよう喚起する  | ①夏季特休・リフレッシュ特休・リフレッシュ年取得の推進、代休・振休の履行を徹底する<br>②健康診断後の再検査・精密検査を早期に実施してもらう<br>③職員の業務負担に目を配り、業務量の平準化に努める                   | ①年休・代休・振休の取得環境についての職員アンケート昨年比<br>②再検・精検100%の実施<br>③一斉退校日の実施状況<br>④年休5日以上取得者率88%以上(4月～12月)   | ①年休等の取得84.2%→94.6%<br>②再検・精検82.6%→68.8%<br>③一斉退校日75.0%<br>④年休5日以上取得80.4→91.7%         | C  | ▼再検率100%を目指し、未受験者への声かけを行う。<br>▼年休取得環境をさらに整える。平均9.0日(R6 13.4日)                                    |   |
|                |                                      | の2 実数育成      | 管理職   | キャリアステージに応じ、教師に求められる指導力の向上を図る  | ①教員の指導力向上のため、研究授業や校内研修会の充実を図る<br>②教員研修履歴システムを活用し、対話に基づく受講奨励を行う   | ①教育課題に関する研修会を2回実施する。<br>②職員アンケートによる自己評価   | ①職員進路研修会、職員精神保健研修会を実施した。<br>②70.3%  | B  | ○教育目標の実現に向け、当事者意識を持って教育活動に取り組んでいる。   | B |
|                |                                      | (3) 教育環境の整備  | 情報デジタル部   | 家庭と連携したICTの活用を行うとともに複数の情報ツールの連携の推進を行う  | ①さくら連絡網の生徒、保護者の運用<br>②Chromebookの適切な利用・管理について啓蒙する。<br>③職員への援助を適切に行う。   | 生徒・職員の評価<br>さくら連絡網の保護者登録率100%   | 利用者数794(生:716,教:136)<br>登録者数846(生:715,教:131)  | A  | ○生成AI(Gemini)の生徒利用申請を行い、保護者にも通知した。担当者の適切な指導による活用をお願いしたい。<br>○さくら連絡網:通常メッセージ378件、アンケート11件(1/27現在) | B |
| 情報デジタル部        | 校務用PC・タブレットや職員アカウントなどの情報に関する業務を適切に行う |              | ICT機器の管理と情報のセキュリティ管理を充実させる。安全利用の啓蒙を行う。                                      | 職員の学校評価  |  | B   | ○アカウント更新を4/11に行うことで業務の効率化を図れた。今後も継続して行います。  |  |  |   |
| 管理職            | 同僚性を高め、学校の特色や強みを効果的に発揮し、魅力を高める       |              | ①学校が置かれている内外環境に関する情報を収集し、分析する<br>②部長主任に働きかけ、分室内で協働的な働き方を促進する                | ①②職員アンケートによる自己評価   | ①78.3%<br>②54.0%   | B   | ○働き方改革の一環として、留守番電話を導入した。<br>▼特定の教員に業務が集中しないよう、各分室内での業務分担の見直しを進める。                     |  |  |   |

4 学校関係者評価委員の方々からのいただいたご意見・ご提言・ご要望等

- ① 教員に求められるファシリテート能力を高める手立てを考えていただきたい。
- ② 生徒へのアンケート結果で「本校に入学してよかった」という回答が多かったのはとても良い。
- ③ 学習時間とスマートフォンの利用時間の関係性をしっかり分析してほしい。
- ④ 本校に限らず高校生の自転車のヘルメット着用率が低い。命を守るため踏み込んだ対策を取るべきではないか。
- ⑤ 校内外で本校生は挨拶がとてもよい。

その他のご意見・ご提言につきましても検討し、次年度の指導に活かしていきたいと考えております。